

平成 27 年度 特別養護老人ホームサンライフ土山（医務）

事業報告書

平成 27 年は、サンライフ土山が開設され二年が経過した。利用者様が高齢化、重度化してきている状況の中、看護師においては、疾病の悪化による受診や入院回避にむけて他職種と協働、連携に努め、利用者様が安全で快適な生活ができるよう支援していった。

I.利用者様の状態の把握と対応

- ① 経管栄養をしている 1 名の利用者様に対して働きかけ、病院と連携をとりながら、経口摂取への移行に向けた支援を行った。また、退院後 5 名の利用者様の状態に応じて食事形態を評価し、常食に向けた取り組みを行った。
- ② スケールⅣの褥瘡持ち込みの 1 名の利用者様に対して、褥瘡ケア評価シートを作成し、継続して褥瘡ケアを行い完治させた。
- ③ ストマ管理ができていなかった利用者様に対して、ストマ外来と連携をとりながらストマケアを実施し、現在はストマ管理することができている。
- ④ 平成 27 年 5 月より、上野歯科の協力を得、利用者様の口腔内を清浄に保つことができている。歯科医師、歯科衛生士より月 1 回指導を受け、口腔ケアに努めた。
- ⑤ 平成 27 年 10 月より、週に一度心療内科おくのクリニックの往診にて、認知症の対応など指導を受けている。今までの心療内科への受診がなくなり業務の効率化が図れた。
- ⑥ 利用者様の排泄等の観察により、尿路感染症を早期に発見し、治療につなげることができた。
- ⑦ 生活リハビリを中心に実施しているが、他職種と連携し身体評価、リハビリ評価を行い自立支援に努めた。

II.嘱託医、協力病院との連携

- ① 週に一度の往診や電話連絡を通して協力病院と密に連絡をとり、必要時は検査等を実施しながら、利用者様の健康管理に努めることができた。
- ② 看取りについて、受診時間短縮について等、協力病院と話し合いを持ち連携を図るべく努力をした。結果、連絡体制のマニュアル、指示等話し合いで決め実施した。
- ③ 配薬のミスを防ぐため、調剤薬局に依頼して、利用者様の薬を配薬時間ごとにホッチキス留めしてもらいようにし、結果、配薬のミスが少なくなった。

III.多職種との連携

- ① 月1回のリーダー会議で意見交換の場を設け、介護職員からの医務に対する要望や意見を聞き、それを医務で検討し、改善を図るように試行した。
- ② 看護師不在となる夜間の指示を、利用者様毎に適切に出すことで、介護職員の不安を取り除き、結果、看護師に対するオンコールの頻度が減少した。

IV.職員の知識、技術の向上

- ①看護、介護共に知識や経験が均一ではないため、処置を一緒に実施し、利用者様に対するケアの質の向上に努めた。
- ②ケアの向上により褥瘡はほとんどないが、介助の問題による骨折事故が1件あった。介護技術の問題、知識不足によるものであったため、今後の課題と考え、引き続き知識や技術の向上に努めていく。
- ③リスクマネジメントに努め、誤薬等の事故を減少することに努めた。引き続き与薬時は丁寧に確認していく必要があることを徹底する。
- ④各委員会にて定期的に学習し、知識の向上に努めた。

V.看護師間の意志の統一化、業務の簡素化、効率化を図る

- ①月1回、医務室会議を開催し、医務の問題点や課題を検討し、改善を図るように施行した。朝礼後、看護師間で情報の共有化を図り、利用者様全体の情報交換を行ったり、記録の合理化をはかった。
- ②利用者様の受診について、看護師が受診に付き添うことで施設内の看護師が手薄となる。このことを家族様に説明し、状況によっては家族様に受診付添いに協力を得られるよう施設の受診に関しての取り決めを話し合った。
- ③入所基準について話し合いを持ち変更作成した。
- ④年間稼働率目標99%に対し、平成27年度、総延べ入院日数648日にて稼働率97.5%907万円の減収となった。次年度は、口腔ケア等質の高いチームケアに力を入れ入院回避にむけ取り組んでいき、その評価をしていく。
- ⑤平成27年度のターミナルケアでの看取りは4名であった。意向確認書では、最期まで施設で過ごさせたいと考えておられる家族様がほとんどである。施設としての看取りの指針に基づき、お互いが納得のいく看取りができるようサポートしていきたい。

VI.感染症対策について

平成27年度は重大な感染症はなかった。感染対策委員会がノロウイルス・インフルエンザ対策マニュアル＝手順書を作成し、ガウンと手袋の着脱のテスト及び出退勤時の手洗い・うがい・更衣の励行を強化したことも感染症の発症を抑える一要となったと考える。